

道徳授業地区公開講座を実施しました

今年度の道徳授業地区公開講座は、1月15日(土)の2校時に実施しました。今日の授業を通して、子どもたちに考えてほしいことをお伝えします。また、ご家庭でも、本日の授業についてのお話をしていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

1 主題名 五十五年目の恩返し（感謝）

2 ねらい

何千人ものユダヤ人の命を助けた杉原千畝と、阪神・淡路大震災の後に援助を申し出たユダヤ人の子孫たちの姿を通して、感謝の心とはどういうものかを考えさせ、日々の生活が、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝するとともに、それに応えようとする実践意欲と態度を育てる。

■教材「五十五年目の恩返し」のあらすじ

まことは、阪神・淡路大震災救援のための「スギハラ募金」を知った。杉原千畝は、ユダヤ人難民のために、国に背いて2000枚以上もビザを発給し命を救った。ユダヤ人団体が、55年前の杉原の行動に感謝の念を表し、募金を設置したという。まことは深い感動を覚えたという内容である。

■ご家庭で話題にしていきたいこと

6年生くらいの子どもたちは、感謝の念を抱く対象である人を、家族などの身近な人から、過去に遡って、現在の生活の礎を築いてくれた先人や偉人などへ対象を広げていきます。また、低学年の児童に優しい態度で接したとき、相手から感謝の気持ちが自分に返ってくる経験をしてきました。

本日、今までの体験を思い起こさせながら、自分を支えてくれている人たちに感謝の気持ちを伝えようとする心情を育てる授業を行いました。

ご家庭においては、感謝の気持ちを伝えることの大切さについて、お話してあげてください。